

# 三重大学附属図書館研究開発室 平成25年度事業報告

## I. 事業の概要

### 1. 附属図書館及び環境・情報科学館の学習支援環境の整備・支援

(長澤・三根・加藤・毛利)

平成25年度にリニューアルオープンした附属図書館、環境・情報科学館(平成24年度に開館)のラーニングcommons及びPBL演習室における学生の授業内外の情報利用行動について、兼務教員、協力教員、専任教員が調査研究を行った。調査結果の一部については、国内の高等教育関係の学会、国外の大学内のセミナーで口頭発表をするとともに、国内の高等教育関係の雑誌で報告した。

### 2. 学術情報リテラシー支援

(長澤・加藤)

平成25年度についても、専任教員及び協力教員が、図書館員とともに、高い学修成果を得られる情報リテラシー教育のモデルを構築するために、初年次教育科目であるスタートアップセミナー(工学部建築学科)及び専門教育科目である「建築計画Ⅰ」および「建築経営工学Ⅱ」において科目関連指導を実施した。成果の一部については、米国の環境デザイン学会総会 edra44 におけるフル・ペーパー査読論文として、また、国内の日本建築学会大会における口頭発表、国内の図書館関係の招待講演等で発表した。また、科目関連指導に対する教員のフィードバックを得るために、附属図書館研究開発室の関係者以外の教員への聞き取りを計画し、一部で試行した。

### 3. 附属図書館所蔵資料に関する調査研究

#### ○『伊勢新聞』のデータ化

(塚本)

附属図書館が架蔵する『伊勢新聞』の紙焼き版を用いて、大正期から昭和20年代までを対象に、津市(主として海岸と歴史文化)及び三重大学に関わる新聞記事を検索し、データ化を進めた。データの入力は、現在までに1000件ほどである。

#### ○漢籍の整理

(吉丸)

平成25年度は貴重書室の漢籍の整理を行った。井上進『三重大学漢籍目録』(平成8年刊)に現時点での本の所在を反映させうえて、電子データ化を行った。「全国漢籍データベース」への登録が可能な段階となった。また整理の途中成果を「藩校の漢籍展」「三重の風土と文学展」として公開した。

### 4. 歴史的・文化的・社会的資産データ集積事業の整備

(塚本)

三重県史編さん班と連携して、三重県関係の歴史的・文化財資産データ集積事業(平成19年度から開始)を引き続き行い、今年度は『三重斯民』『あすの三重』『鈴屋学会報』を中心に、これまでに集積された調査カード約2000枚弱のデータ化を行った。

### 5. 「大学の知」に関する地域との連携及び地域への還元活動

#### ○海女研究会の運営

(菅原・塚本・石原・川口・吉村)

県立博物館、海の博物館と大学（図書館）が連携した調査研究活動の一環として、海女研究会の運営に当たった。今年度は6回の研究会を開催し、活発な議論を行った。

#### （海女研究会開催記録）

平成 25 年 4 月 22 日（月） 15：30～

場所 県立博物館 レクチャールーム

内容 大橋克己（(株)クラレ顧問）「チェジュドー民俗調査に参加して」  
川口祐二（エッセイスト）「伊豆の海で潜く海女たち」  
山本茂紀・和子「鳥羽市（石鏡町・国崎町・相差町）における海女の町調査について」

---

平成 25 年 6 月 24 日（月） 15:30～

場所 県立博物館 レクチャールーム

内容 阿部文彦（三重県水産研究所）  
川又俊則（鈴鹿短大）

---

平成 25 年 8 月 19 日（月） 15:30～

場所 県立博物館 レクチャールーム

内容 竹内泰介（三重県水産研究所）「海女漁業を支援する新しい試み」  
橋本好史（鳥羽市文化財調査委員長、答志島美多羅志神社宮司、三重大学大学院生）「海女の信仰－答志島を中心として」

---

平成 25 年 9 月 22 日（日） 9：00～

場所 三重大学共通教育 3 号館 2 F 1231

内容 公開ミニシンポジウム「海女漁業の現状と将来展望」（日本水産学会  
秋季大会一般公開行事）  
松田浩一（三重県水産研究所）  
石原義剛（海の博物館）  
塚本明（三重大学人文学部）  
竹内泰介（三重県水産研究所）  
原田泰志（三重大学大学院生物資源学研究所）  
山川紘（東京海洋大）  
堀井豊充（東北水産研究所）

---

平成 25 年 12 月 16 日（月） 15：30～

場所 県立博物館 レクチャールーム

内容 吉村利男（三重大学客員教授）「近代期の海女漁獲物とその製造・加工」

---

平成 26 年 2 月 24 日（月） 15:30～

場所 アストプラザ 4F 会議室（2）

内容 常清秀（三重大学大学院生物資源学研究所）「海女漁業の販売戦略」

## ○? 「発見塾」三重大学シリーズに関する協力

(菅原)

? 「発見塾」(主催:津市教育委員会・津市民文化祭実行委員会、主管:津文化協会)は教育・研究の拠点、三重大学を市民の目線で理解し、より多く知ろうという、津市民の思いから始められた講演会シリーズであり、また、津市における市民の文化集積の場として三重大学を理解いただき、地域と大学の信頼関係を構築することもねらいとなっている。この企画・運営に協力し、今年度は7回の講演会を開催した。

### (? 「発見塾」開催記録)

平成25年5月25日(土)13:30~

会場 津市久居総合福祉会館

内容 成岡 市(大学院生物資源学研究科・教授)「上野英三郎とハチ公は今の時代に何を伝えたか?」

---

平成25年7月27日(土)13:30~

会場 津リージョンプラザ2階健康教室

内容 宮崎 照雄(三重大学名誉教授)「これであなたも蝶博士」

---

平成25年8月10日(土)13:30~

会場 津リージョンプラザ2階健康教室

内容 菅原 洋一(大学院工学研究科・教授)「千歳山・半泥子ワールドへようこそ」

---

平成25年9月28日(土)13:30~

会場 津リージョンプラザ2階健康教室

内容 菅原 洋一(大学院工学研究科・教授)「千歳山・半泥子ワールドへようこそ」

---

平成25年11月30日(土)13:30~

会場 中央公民館ホール

内容 森 正人(人文学部・准教授)「ハゲはなぜ悩ましいのか 一劣等感の社会史一」

---

平成26年1月25日(土)13:30~

会場 芸濃総合文化センター大研修室

内容 伊藤 正明(医学部附属病院循環器内科・教授)「高血圧を予防・治療して、延ばそう健康寿命」

---

平成26年3月22日(土)13:30~

会場 津リージョンプラザ2階健康教室

内容 矢野 裕(医学部附属病院糖尿病・内分泌内科・准教授)「健康寿命を延ばすための食生活とは?」

○「よみがえる昭和の津のまち展」に関する協力 (菅原・吉村)

「よみがえる昭和の津のまち展」(会期：平成26年1月15日～1月19日、会場：NHK津ギャラリー、主催：津文化協会、後援：津市・津市教育委員会、協力：三重県立博物館・三重大学)は空襲で消え去った津城下の景観を、市民からの聞き取りや資料提供をもとに復元し、絵画として表現し、展示するものである。この企画・運営に関して、収集資料の評価分析や整理保存、展示資料作成等の協力を行った。

---

## Ⅱ. 室員の活動

### ■【地域貢献】

- ・静岡大学附属図書館・外部評価委員(委員：長澤多代)
- ・桑名市教育委員会 図書館協議会委員(副会長：長澤多代)
- ・津市子ども読書推進協議会(津市子ども読書推進実行委員会)(副会長：三根慎二、委員：磯谷峰夫)
- ・津市図書館協議会(副会長：三根慎二)
- ・史跡旧豊宮崎文庫保存管理活用計画策定委員会(委員長：菅原洋一)
- ・史跡旧豊宮崎文庫保存整備指導委員会(委員長：菅原洋一)

### ■【個人研究】

- ・長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携に関する比較研究：フィンランドの事例研究」日本学術振興会・特定国派遣研究者(フィンランド・長期)(2013年度)。
- ・長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携の構築に関する比較研究」科学研究費補助金(基盤研究C)(2012年度～2014年度)。
- ・塚本明「近世期紀伊半島海民の多様かつ広域的生業形態とその近代的変容」科学研究費補助金(基盤研究C)(2013年度～2016年度)。

### ■【図書等】

- ・倉田敬子, 三根慎二. “4.3 学術情報の利用”. 上田修一, 倉田敬子編著. 図書館情報学. 勁草書房, 2013, p. 208-220.
- ・菅原洋一, 三沢浩「登録有形文化財三重大学レーモンドホールーその特質と意義ー」. 三重大学博学連携推進室, 2014
- ・三重大学附属図書館リニューアル記念特別展示「藩校の漢籍」. 三重大学附属図書館, 2013.
- ・三重の風土と文学 : 展示資料目録. 三重大学附属図書館, 2013.

### ■【論文】

- ・長澤多代「主体的な学びを支える大学図書館の学修・教育支援機能：ラーニングコモンズと情報リテラシー教育を中心に」『京都大学高等教育研究』〔高等教育の動向(招待論文)〕No. 19, 2013, p. 99-110.

- ・長澤多代「ミシガン大学の図書館が実施する学習支援・教育支援に関するケース・スタディ：フィールド・ライブラリアンの活動を中心に」〔短報〕『Library and Information Science』No. 70, 2013, p.177-217.
- ・塚本明「古文書史料にみる海女漁の『技能』」『海女習俗詳細調査報告書』（三重県、2014.3)
- ・Fahed A. Khasawneh, Akikazu Kato, Shiho Mori, Changing Campus Learning Space Design to Correspond with Adopting Problem Based Learning, Student Collaboration, Prominent Activities, and Its Relationship to Learning Styles, edra44 Providence Conference Proceedings, refereed full paper, pp. 71-78, 2013, environmental design research association
- ・加藤彰一, 毛利志保, 建築学科 PBL における学習空間と学生のコラボレーション行動に関する考察, 大学キャンパスのファシリティマネジメント研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道), 2013, 5224, pp. 471-472
- ・佐藤義則, 小山憲司, 三根慎二, 倉田敬子, 逸村裕, 竹内比呂也, 土屋俊. 日本の研究者による電子情報資源の利用 : SCREAL2011 調査の結果から. 情報管理. 2013, vol. 56, no. 8, p. 506-514.

#### ■【報告等】

- ・長澤多代「大学図書館が実施する学修支援・教育支援サービス：北米の事例から見えるもの」〔講演要旨〕東海地区大学図書館協議会誌, No. 58, 2013. p. 22-33.
- ・長澤多代「三重大学附属図書館がリニューアルオープンしました」『三重大学人文学部同窓会・会報』No. 29, p. 1, 2013.

#### ■【研究発表（口頭発表）】

- ・NAGASAWA Tayo. “Building Collaboration between Faculty Members and Librarians in University Education” Research Seminar, Information Studies, School of Business and Economics, Åbo Akademi, 2013/12/2.
- ・長澤多代「主体的な学びの場が機能する仕組み：三重大学の事例をもとに」〔ラウンドテーブル（報告者）〕米澤誠, 井上真琴, 近田政博, 長澤多代「ラーニング・commons における学習の形」大学教育学会第33回大会, 東北大学, 2013/6/1.
- ・塚本明「海女の歴史（古代～近代）」（海女サポート&ボランティア養成講座, 海の博物館, 2013/6/15)
- ・塚本明「志摩における近世・近代の海女漁の特質」（日本水産学会秋期大会ミニシンポジウム, 三重大学, 2013/9/22)
- ・塚本明「海女は古来、なぜ人を惹き付けてきたのか～「あまちゃん」と志摩海女の生業（なりわい）～」(三重大学先端研究シンポジウム, 東京, 都市センターホテル, 2013/12/3)
- ・塚本明「日本の海女の歴史」（海女文化シンポジウム, 三重県立美術館, 2014/3/1)
- ・岩月亮士, 菅原洋一「昭和戦前期の津市街地における商店建築の表構えに関する研究-吉川仁氏旧蔵写真による分析-」（日本建築学会東海支部研究報告集, 名古屋大学, 2013/2/18)

## ■【招待講演】

- ・長澤多代「大学の教育改革に大学図書館の学修支援を組み入れる諸方策」〔基調講演〕／久保田進一，長澤多代，鹿田正昭，鎌田均「大学図書館におけるこれからの学習支援：ラーニングコモンズを超えて」〔シンポジウム（パネリスト）〕大学間連携共同教育推進事業 学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築「図書館機能強化プログラム」シンポジウム，金沢大学附属図書館，金沢大学，2014/3/11.
- ・長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携を促すカスタマイズ型の学習支援」〔レクチャー〕／矢崎美香，長澤多代，常世田良「教育を変えるための図書館と教員連携そしてレファレンス強化」〔ディスカッション〕大学図書館問題研究会・福岡支部例会，立命館アジア太平洋大学，2014/2/15.
- ・長澤多代「大学教育改革における大学図書館：学修支援，教育支援，教員との連携」〔講演〕平成25年度大分県大学図書館協議会研修会，立命館アジア太平洋大学，2014/2/14.
- ・NAGASAWA Tayo. "Universities and Libraries in Japan" 2013/11/9. Tritonia (University of Vaasa, VAMK University of Applied Sciences, Åbo Akademi, Hanken, and Novia University of Applied Sciences), Vaasa, Finland.
- ・三根慎二. 学術コミュニケーションの最近の動向. 平成25年度静岡県公立図書館等職員専門研修（大学・専門図書館研修）. 聖隷クリストファー大学. 2013/8/8.

## Ⅲ. 組織

	氏名	専門領域	所属・職名
室長 (附属図書館長)	吉岡 基	海産哺乳動物学	理事(研究・情報担当)・副学長
専任室員	長澤 多代	図書館情報学	附属図書館研究開発室・准教授
兼務室員	塚本 明	日本史学	人文学部・教授
兼務室員	菅原 洋一	日本建築史	工学研究科・教授
兼務室員	三根 慎二	図書館情報学	人文学部・講師
客員教授	石原 義剛	博物館学	海の博物館館長
客員教授	川口 祐二	漁村生活史	エッセイスト
客員教授	吉村 利男	日本史学・考古学	三重県史編さん班編集委員
協力大学教員	加藤 彰一	建築学	工学研究科・教授
協力大学教員	吉丸 雄哉	日本近世文学	人文学部・准教授
協力大学教員	毛利 志保	建築学	工学研究科・助教